



目的

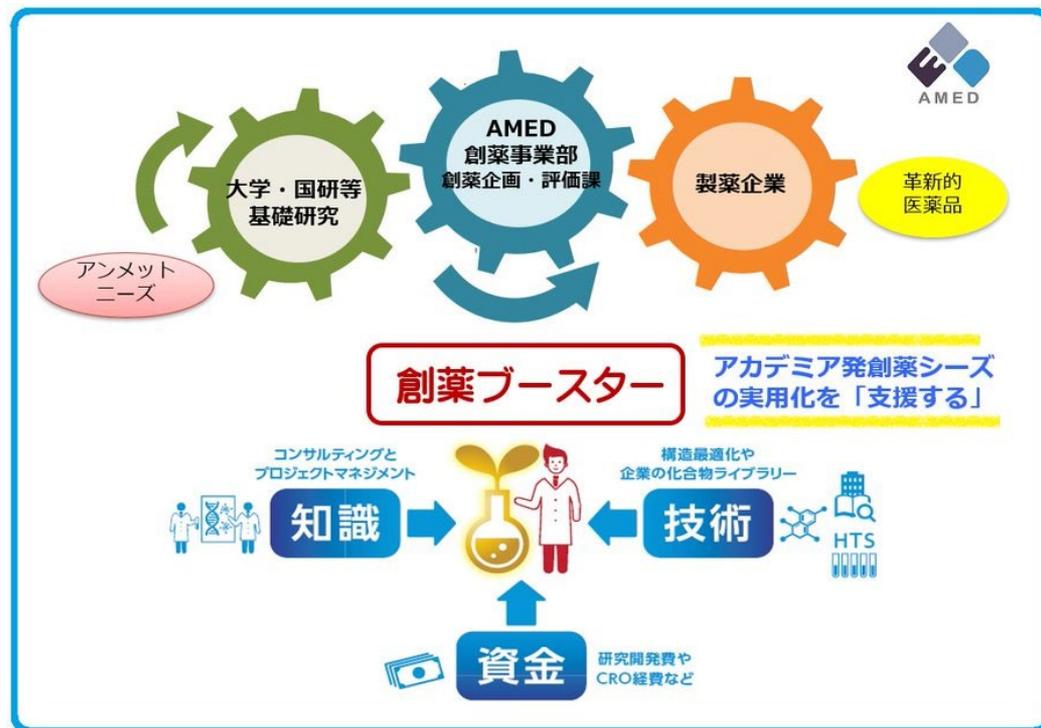
アンメットメディカルニーズ
（有効な治療方法がない疾患に対する医療の必要性）に応える

方法

大学などの研究機関が、AMED
（日本医療研究開発機構）からの支援を受けて、創薬研究を実施する

到達目標

製薬企業へ化合物を導出し、
創薬を共同で実施する



線維化シグナリングを標的とした 新規肺線維症治療薬の検証

研究代表者： 濡木 真一

所属機関： 国立大学法人大分大学

所属部署： 医学部附属病院呼吸器・感染症内科

役職： 講師

特発性肺線維症とは？

厚生労働省の指定難病

(原因) 発症原因は不明、喫煙者、男性、50歳以上に多く発症します

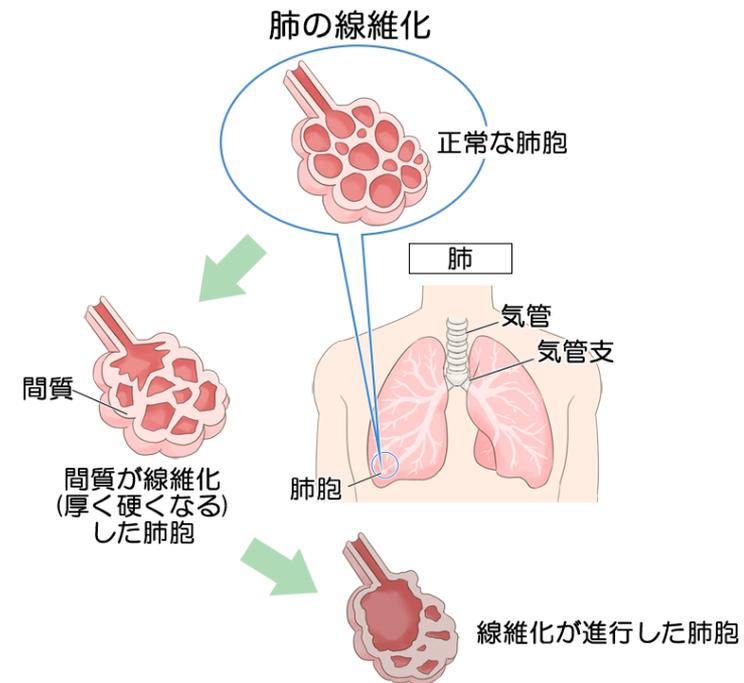
(症状) 咳、息苦しさ



(患者数) 本邦で1万3千人程度

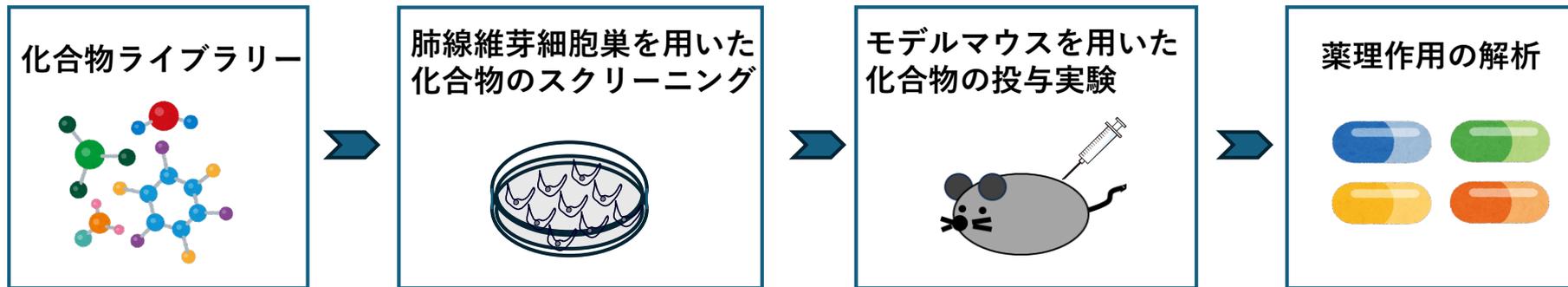
(予後) 診断からの平均生存期間は3～5年間

(病態) 肺胞の細胞が傷つき、その修復のためにコラーゲンなどが増加し、肺の間質が厚くなります。次第に進行し、肺が固くなり、肺が膨らみにくくなるため、呼吸が維持できなくなります。



©MedicalNote, Inc.

特発性肺線維症の創薬戦略



特色・特徴

- ・ 独自の化合物ライブラリーから、肺線維芽細胞を用いて、細胞レベルで肺線維化に有効性を示す化合物のスクリーニング
- ・ 遺伝性肺線維症の原因遺伝子をマウスに組み込み、肺線維症を自然発症する独自の遺伝子改変マウスに対する化合物投与実験
- ・ マルチオミックス解析（生体の機能を司る様々な物質を、一つひとつではなく、すべて一括して分析する手法）による薬理作用の解析
- ・ 既存の治療薬とは異なる薬理作用を有し、かつさらに優れた抗線維化作用を持つ化合物の探索